

ペット質問箱

犬が心臓病、何に気を付けたい？

症状なくとも薬継続し発症遅らせて

遅らせることが期待できます。お薬を続けていきましょう。

犬の心臓病のサインとしては「せきをする」「以前より疲れやすく元気もない」「散歩で歩ける距離が減った」「呼吸数が多くなった」「走らない」「食欲が落ちてきた」など、さまざまな症状があります。ただこれらの症状は、心臓病が進行した末期に初めて認められることが多いため、心臓病がひっそりと進行していても、気が付かないこともあります。

心臓病の進行具合をチェックするため、定期的な聴診や各種検査をお勧めします。検査の頻度についてはかかりつけの獣医師さんにご相談ください。

心臓病の犬の注意点として、日々気を付けて観察してほしいのは「呼吸数」です。寝ている時などのスーハーという呼吸音を1回として数えます。音が聞こえにくい時は、胸が膨らむ回数で数えます。犬の呼吸数は小型犬で1分間に20回前後、大型犬では15回くらいです。30回を

超えると異常のサイン、40回を超えた時は赤信号ですので、かかりつけの動物病院などへ連絡を取ってください。

また心臓病の症状とは別に、犬は暑いとパンティングという浅く速い呼吸をすることで体温を調節しますので、暑い夏は呼吸数が増えることがよくあります。呼吸数が多い場合には室温が高くないかもチェックしてください。

(宇治 正憲・県獣医師会員)

<月1回掲載します>

問 今年で10歳になる愛犬が動物病院で心臓病といわれ、薬を飲み始めました。今は元気で散歩にも行き、ご飯もよく食べるので、心臓病とは思えないほどです。これから何に気を付ければよいでしょうか。

答 心臓病にはいろいろなタイプがあり、聴診やさまざまな検査(エックス線検査、エコー検査など)を行った上で診断します。あなたのワンちゃんは、今は心臓病の症状は認められないようですが、治療を行うことで発症を

ペットに関する素朴な疑問や健康、飼い方についての質問をお寄せください。〒422-8670 静岡新聞社編集局「ペット質問箱」係へ。Eメール<seikatsuhoudou@shizuokaonline.com>や、右のQRコードで投稿フォームからも送信できます。全てにはお答えできず、直接回答もしかねますがご了承ください。

